

大学生を対象とした「幼稚園」および「保育園」についての イメージの比較

長内 優樹

Measurement of the Image for “Kindergarten” and “Nursery school”

Yuki Osanai

要旨

子どもをもつ親にとっては子どもを幼稚園に通わせるのか、保育園に通わせるのかは、大きな関心事項のひとつとなることが多い。しかし、その異同について、大学教育に至るまでの学校段階で知る機会は多くのものにとって少ないのが現状である。そこで、本研究では一般に育児生活は未経験ではあるが学校段階のうち最も育児生活を身近に想像しやすいものが多いと考えられる大学生を対象に、両所のイメージを測定し比較することを目的とした。結果として、多くの点で幼稚園の方が保育園よりも肯定的に捉えられていたが、全体的なイメージのプロファイルは類似しており、両者の異同についてイメージの面においては十分に認識できていないことが明らかになった。

キーワード

大学生、幼稚園、保育園、イメージ、セマンティック・ディファレンシャル法

1. 問題と目的

子どもをもつ親にとっては子どもを幼稚園に通わせるのか、保育園（保育所の通称）に通わせるのかは、大きな関心事項のひとつとなることが多い(例えば、Benesse、2016)。また、近年では両所の特徴を併せ持つ「認定こども園」もみられるようになってきており、就学前教育における施設の選択肢は自由度を増している。育児に携わる各家庭において、その生活スタイルに合わせた適切な就学前教育を選択するのは家庭を構成する各人のQOL（Quality Of Life）の観点からも極めて重要なことである。ただし、これらの施設の異同についての理解が普及し

ているとは言い難い（例えば、やなぎ、2017）。そのうち、2006年に「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」の制定により（文部科学省、2006）、幼保一体化施設として開始された認定こども園についての理解が充分ではないことは、歴史の短さから考えれば頷けるが、幼稚園と保育園はともに長い歴史をもつ施設である。そして、両者は実際には、根拠法令、所管、保育対象となる年齢や保育時間、給食の有無、教員の資格など多くの点で差異があるが（文部科学省、1947, 2003；厚生労働省、1947）、異同の理解が不十分であることは不可解なことと考えることができる。

このような現状においては、就学前教育の施設の利用においては、両者についてのイメージ（印象）が果たす役割は少なくないと思われる。現実には、子どもが通所可能な年齢に近づくにつれ、自らその異同について関心を持ち、知識を得るための自発的な行動をとりはじめることも多いはずだが、それでもなお、両者について保持してきたイメージはその理解に影響をおよぼすことであろう。

そこで、本研究では一般に育児生活は未経験ではあるが学校段階のうち最も育児生活を身近に想像しやすいものが多いと考えられる10代後半～20代前半の年齢層が多い大学生を対象に幼稚園と保育園が一般にどのようなイメージを持たれているのかを探ることに焦点をあて、両者のイメージの違いを検討することを目的とする。イメージの測定方法として Osgood, Suci, & Tannenbaum (1957) による Semantic Differential Technique (以下 SD 法) を用いる。本研究は、より多様化が進む我が国の生活スタイルにおいて育児に携わるものの多くに、より適切な育児環境の選択を可能とする知識の普及に向けた施策を構想する上での基礎的資料としてなり得るため意義があるだろう。

2. 方法

1. 調査参加者

調査に参加した関東圏内の一般大学生 99 人のうち、回答漏れのない 97 人を分析対象者とした。ち

なみに、全ての大学生が心理学系の学部および学科に所属しており、就学前教育を専門とする学部および学科の学生は皆無であった。

2. 調査時期

2017年7月に実施した。

3. 手続き

合同会社セカンダリーが企画・運営する各種講座を受講した学部学生に対して個別配布による自己記入式の調査として実施した。調査実施者は評定用紙を配布し、「評定対象語名を見て、頭に浮かんだ感じを各尺度で評定します。5段階の評定であり、各評語に対応する短い縦線を○でかこんでください。あまり考え込まずに印象でつけてください。」という教示を調査参加者に与えた。次いで、調査実施者は調査参加者からの質問を受けた後、回答時に考え込んでしまうことを防ぐために、約5秒に1対の割合で形容詞対を読み上げていった。全ての形容詞対への評定終了時に再度質問を受け付け終了した。

4. 質問紙

SD法の評定用紙として、Osgood et al. (1957) により重要とされる3種類の形容詞（評価、力量、活動）をあらわす形容詞対を評語として採用した。評価を構成する評語は「立派な－ひどい」「役立つ－役立たぬ」「よい－わるい」、力量を構成する評語は「大きい－小さい」「力のある－力のない」「強い－弱い」、活動を構成する評語は「速い－遅い」「騒がしい－静かな」「若い－老いた」のそれぞれ形容詞

表1 幼稚園と保育園の平均値、標準偏差およびt検定の結果

	幼稚園		保育園		<i>t</i>	<i>p</i>	<i>d</i>
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>			
評価							
1 立派な－ひどい	3.72	.83	3.10	.78	6.48	.000	.55
2 役立つ－役立たぬ	4.32	.87	4.20	.94	1.31	.192	.13
3 よい－わるい	4.22	.74	3.73	.88	5.22	.000	.47
力量							
4 大きい－小さい	3.24	1.19	2.31	1.02	6.23	.000	.54
5 力のある－力のない	3.24	1.06	2.56	.97	5.87	.000	.51
6 強い－弱い	3.03	1.03	2.61	.95	3.79	.000	.36
活動							
7 速い－遅い	3.36	.96	2.57	.95	5.47	.000	.49
8 騒がしい－静かな	4.32	.96	4.53	.87	-1.76	.082	.18
9 若い－老いた	4.51	.88	4.63	.80	-1.51	.134	.15

につき3対ずつである。各評語の対の間には5段階の等間隔の目盛を布置し、予め評定対象語名（幼稚園、保育園）を印字した。

5. 倫理的配慮

検査実施時にその主旨と参加における任意性およびプライバシーの保護について文章と口頭で説明し同意を得ており、SD法への回答以外の一切の個人情報収集していない。加えて、調査の実施にあたり所属機関における倫理審査を受けている。

3. 結果

幼稚園と保育園の各形容詞対について、右側の評語から左側の評語にむけて1、2、3、4、5と配点し平均値、標準偏差およびt検定を行った(表1)。

結果は評価についての形容詞の「役立つー役立つぬ」、活動について形容詞の「騒がしいー静かな」「若いー老いた」を除く6つの評語において有意差がみられ、いずれの評語においても幼稚園の方が保育園よりも高い得点であった。

表1の平均値をもとに作成したSD法プロファイルを図1に示す。

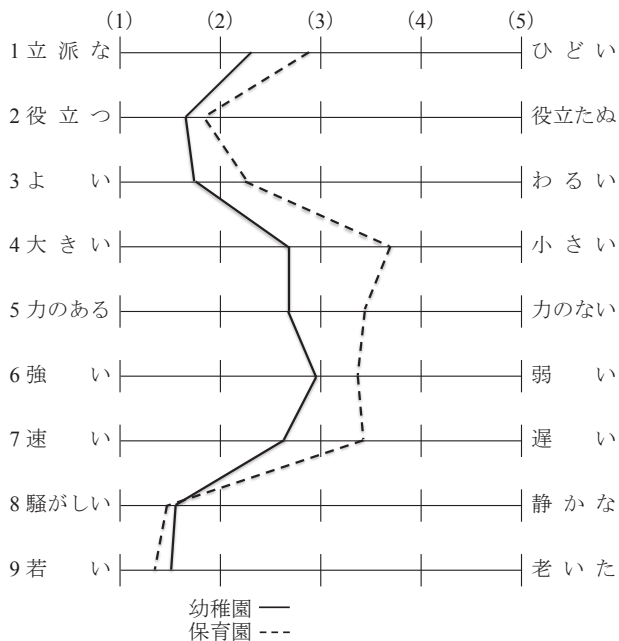


図1 幼稚園と保育園についてのSD法プロファイル

4. 考察

本研究の結果から、幼稚園と保育園のイメージについて、評価という次元においては幼稚園の方が保育園より立派であり、よいものとして認識されていることが明らかになった。ただし、「役立つー役立つぬ」においては有意差がみられず、共通して平均が4点を超え標準偏差も1を下回っていることから、両者とも共通して役立つものとして認識されている傾向が高いことが示唆された。次に、力量という次元においては幼稚園の方が保育園より大きく、力があり、強いものとして認識されていることが明らかになった。さらに、活動という次元においては幼稚園の方が保育園より速いものとして認識されていることが明らかになった。ただし、「騒がしいー静かな」「若いー老いた」においては有意差がみられず、共通して平均が4点を超え標準偏差も1を下回っていることから、両者とも共通して騒がしく、若いものとして認識されている傾向が高いことが示唆された。これらの結果からは、幼稚園の方が保育園よりも、全般的に肯定的なイメージを持たれており、それは特に「力量」、続いて「評価」とSD法では呼ばれる次元において顕著であるといえる。

また、図1をみると、幼稚園と保育園のプロファイルは類似した形状を示していることから、両者のイメージは似ているが、幼稚園がより肯定的に捉えられているといえる。以上のことから、大学生における幼稚園と保育園のイメージは、肯否の強度に差がある箇所は多いものの、プロファイルが示すように、イメージの全体像は似たものとして認識され、その異同について十分に認識できていないと結論づけられる。

本研究の結論からは、幼稚園と保育園の異同について関心を持つことおよび知る機会が、自らの育児生活において最適な判断を行うために、多くの一般大学生においては必要となると考えられる。それは、大学教育までの教育機関で教育の一環として行われるべきであるのか、または、各々の人生において必要に迫られた際に調べることのできるスキルを大学

教育までに育むべきであるのか、もしくは、それを容易に知ることのできる社会的資源をより整備すべきであるのか議論が必要であろう。

最後に、本研究で得られた結果が、本研究の調査参加者の属性の影響による限定的なものであるのか、本研究の結果の外的妥当性を検証するために追試研究を実施し、知見を蓄積していくことがもめられる。その際、より詳細に両者のイメージを捉えることを可能にするために、本研究で使用した形容詞の評語のみでなく、適切な評語を追加して調査を実施することも検討する必要があるだろう。

5. 引用文献

- Benesse (2016). 表で比べる！ 幼稚園と保育園の違いはココ！ ベネッセ教育情報サイト
<http://benesse.jp/kosodate/201601/20160111-1.html>
 < 2017年9月15日 >.
- 文部科学省 (1947). 学校教育法 (昭和二十二年三月二十九日法律第二十六号)
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317990.htm < 2017年9月15日 >.
- 厚生労働省 (1947). 児童福祉法 (昭和二十二年法律第百六十四号) 厚生労働省
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/tuuchi-01.pdf> < 2017年9月15日 >.
- 文部科学省 (2003). いわゆる「幼稚園と保育所の一元化」について 内閣府
<http://www8.cao.go.jp/kisei/giji/03/wg/action/05/2.pdf> < 2017年9月15日 >.

文部科学省 (2006). 就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律
http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/kakutei/06040515/06062708/002.htm < 2017年9月15日 >.

Osgood, C. E, Suci, C. J, and Tannenbaum, P. H. (1957). The measurement of meaning, University of Illinois Press.

やなぎあいこ (2017). 幼稚園と保育園の違いって？
 チェックポイント ママと子ども舎
<http://xn--o9jc9ezra1136dxxyc.com/a-kindergarten-or-nursery/> < 2017年9月15日 >.

6. 付記

1. 利益相反

本研究の実施にあたっては合同会社セカンダリー (英称: Secondary, LLC / 所在地: 東京都港区 / 代表者: 長内優樹) からの支援を受けている。

2. 謝辞

本研究の調査に参加していただいた大学生の皆様に厚く御礼申し上げます。また、本研究の計画および実施において、下記の方々にご支援をいただきました。根岸香菜 (合同会社セカンダリー)、今野順 (横浜市立大学大学院)。記して感謝申し上げます。

(おさない ゆうき) 合同会社セカンダリー